BRiDGE

東北電力社誌［ブリッジ］
Vol.681
2017 4 APR



特集

平成29年度 入社式を開催

CONTENTS

vol.681 2017 4

■表紙の写真から



LNGタンク上部に立つ新仙台火力発電所LNG運転グループの佐藤貴洋さん（右）と浅野靖副長（左）。「1／東北電力」では当社直営としては唯一となるLNG船受入業務の最前線に密着した

01 特集
平成29年度 入社式を開催

09 新入社員へアンケート！

13 平成29年度 供給計画の概要

TOPICS 考査室・人財部
15 「安全・保安方針」を改正
～ 一人ひとりが，さらなる安全行動を！ ～

TOPICS 広報・地域交流部
17 地域の方々との信頼関係の構築に向けて

TOPICS 電力システム部
21 「安全文化改革ミーティング ～Change our Mindset いま変革のとき～」開催

22 地域とともに －そしてこれからも－［第15回］
「ラグビーワールドカップ」を応援!
～イベントを通して地域への思いを新たに～

23 1／東北電力 ～「よりそう」現場からのレポート～［第34回］
新仙台火力発電所 LNG運転グループ 編

Monthly News
25 ■「WANO小規模CEO会議（インド）」に原田社長が出席
26 ■海輪会長と山本常務が海外IR活動を実施
27 ■「第136回永年勤続者感謝状贈呈式」を開催
28 ■新潟の地場産業“日本酒”から考える地方創生
～新潟日報メディアシップでイベント開催～
29 ■燃料電池自動車トヨタ「MIRAI」納車式を開催
～本店において「新型プリウスPHV」とともに車両を展示～

30 掲示板

31 退職者の方々

DATA FILE
電力需給実績／株価・出来高



平成29年度 入社式を開催

4月3日,新年度の始まりとともに,平成29年度入社式が開催され,当社は新たに274人の仲間を迎えました。

入社式では,まず,新入社員全員の氏名が読み上げられ,代表者へ原田社長から辞令が手渡されました。続いて,原田社長は,創立以来の大変革の時代にある当社に入社するに当たっての心構え,期待することなどを述べ,新入社員を激励しました。







原田社長 訓示

入社のお祝い

274人の新入社員の皆さん，入社おめでとうございます。会社を代表して心より歓迎いたします。

こうして，皆さんの緊張感のある真剣な表情を拝見しておりますと，社会人としてのスタートという人生の大きな節目を迎え，それぞれ胸に期するものがあると感じます。今日，この日の初心を忘れることなく，これから始まる，東北電力社員としての新たな人生を実りあるものにしていただきたいと思います。

さて，本日，私からは，東日本大震災以降，当社が直面する厳しい経営環境や，昨年4月から始まった電力の小売全面自由化など，創立以来の大変革期を迎えたこの時期に当社に入社された皆さんに，どのような心構えを持って働いていただきたいかということ，そして皆さんに期待することについてお話しいたします。

入社に当たっての心構え

東日本大震災への対応

はじめに，東日本大震災の発災後の停電解消や被災した電力設備の復旧などの対応で，皆さんの先輩方が，どのようにして困難な局面を乗り切ってきたのかについて触れながら，皆さん一人ひとりに考えてほしいこと，実行してほしいことについてお話ししたいと思います。

▌被災設備復旧と停電解消

皆さんの中にも，6年前の東日本大震災を経験し，さまざまな困難を乗り越え，今日この日を迎えた方がいると思います。

当社は震災により，発電所や送電線，変電所，配電線といった，太平洋側の電力供給設備に甚大な被害を受け，地震発生直後には，新潟県を除く東北6県のほぼ全域にわたって，当社全体のお客さまの約7割が停電しました。これは，当社創立以来，空前の規模となる停電でありました。そうした中，皆さんの先輩方は，驚異的なスピードで，被災した電力設備の復旧や停電の解消などを成し遂げました。また関東では，日常の生活や産業・経済活動などに大きな打撃を与える計画停電が実施されましたが，当社においては，お客さまのご理解ご協力を含め，電力の需給両面にわたるあらゆる対策によって，計画停電を実施することなく，最悪の事態を回避することができました。

こうした努力に対し，当社は，お客さまから，たくさんの感謝のお言葉をいただきました。例えば，「がれきだらけの街の中に，次々と電柱が建っていく様子に感動しました。電気を届けなければという使命感が，現場とバックアップの方々が一体となって，発揮されているのですね。素晴らしい仕事ぶりです」といったものです。このようなお言葉は，私たちにとって，本当にありがたく，それまでの苦労やたまっていた疲れも吹き飛ぶ思いがいたしました。

一口に「電力の安定供給」と言いますが，その陰には発電から送電，変電，配電，お客さま対応，地域対応，これらを支える間接部門など，各部門にまたがる「技術やノウハウの積み重ね」と「業務に携わる社員一人ひとりの懸命な努力」があります。

東日本大震災で，当社が迅速な復旧を成し遂げることができたのは，このような“強い使命感”と，全職場・全社員が，「一刻も早く停電を解消する」，「計画停電は何としても避ける」という共通した目標に向かって一致団結し，やるべきことをやり抜くことができたからだと思います。皆さんも，一日も早く，こうした強い使命感と団結力，貫徹力，現場力を先輩方から学び，自分のものにしていってほしいと思います。

▌原子力発電所の再稼働

続いて，原子力発電所の再稼働の課題についてお話しします。

皆さんもご存じのとおり，東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生したことによって，それまで築き上げてきた「原子力への信頼」，「電力会社に対する信頼」が，わが国全体において深く傷付いてしまいました。

これまで安全だといわれ，信頼されてきた日本の原子力発電所で，極めて大規模な事故が発生したことは，社会に大変なショックを与えました。その後，当時国内にあった54基全ての原子力発電所が運転を停止し，世界で最も厳しいレベルといわれる新しい規制基準が定められ，この基準に合格しなければ，原子力発電所は再稼働できないことになりました。

当社としては，「安全性の確保を大前提とした上で，エネルギーの安定供給，経済性，環境保全を同時に達成するという考え方に基づき，今後も原子力を一定の割合で活用していくべき」と考えており，現在，女川原子力発電所2号機，東通原子力発電所1号機について，国の厳しい審査に臨んでいるところです。

しかし，原子力発電所の再稼働については，国の新しい規制基準に合格しなければならないことに加え，地域の皆さまから広くご理解をいただくことが不可欠となります。一度失った原子力に対しての信頼を回復するのは，容易なことではありません。東京電力福島第一原子力発電所の事故後，6年を経てもなお，原子力に対しては，お客さまや地域社会全体から厳しい目を向けられています。こうした中，皆さんの先輩方は，地域の皆さまのご意見・お声をしっかりお聞きしながら，丁寧にご説明する対話活動を地道に積み重ねていくことで，原子力に対する信頼の回復を図ろうと，日々懸命に努力しています。

東北電力の社員として，原子力に関するさまざまな課題は，避けては通れない，とても重要なテーマです。「自分は営業所配属だから関係ない」とか「それは原子力部門の仕事」といった考えではなく，全社員が自分の問題として捉え，お客さまや地域の皆さまにご理解いただくために何ができるかを考え，できることから行動に移していかなければなりません。

皆さんが本日の午後から受講する「新入社員導入教育」には，女川原子力発電所を実際に見学するプログラムも含まれています。そこで見たこと，聞いたことを自分の頭の中でよく整理して理解し，自分の言葉で，「原子力の必要性」や，当社の「安全性向上のために努力する企業としての姿勢」をきちんと説明できるように，必要な知識と経験を身に付けていただきたいと思います。

創立以来の大変革の時代

次に，激動の真っただ中にあるエネルギー業界において，今後，当社がどのように対処していくべきかについてお話しします。

皆さんご存じのとおり，昨年4月から，電力の小売全面自由化が始まりました。

また，平成32年4月には，電力システム改革の第3弾として，送変電や配電といった，いわゆるネットワーク部門を分離・独立させる「法的分離」が実施されることになっております。

一方で，東北地域に目を移すと，東日本大震災で大きなダメージを受けた地域の復興は未だ道半ばであり，東日本大震災以前より顕在化していた人口の減少，少子高齢化の進展といった地域の課題にも拍車がかかっている状況にあります。

このように，当社を取り巻く事業環境は，従来の想定を超えて，その厳しさや複雑さを増してきています。

▌変革意識を持って

このような状況下で，当社の存立をしっかり守っていく上で何よりも大切なのは，お客さまや地域社会から，「東北電力なら信頼できる」，「東北電力は地域の一員として欠かせない存在だ」と言っていただけることだと思います。

そして当社が，お客さまや地域のご期待にお応えしながら，地域とともに持続的に成長していくために，「変えるべきところは積極的に変えていく」という，いわば「変革」を成し遂げていくことが求められるのではないかと思います。

入社間もない皆さんには，見るもの，聞くもの，全てが新しく，何にも染まっていない新鮮な感覚をお持ちだと思います。その新鮮な感覚こそが，皆さんの強みでもあります。これから配属される部門・職場に関わらず，気付いたことは，ぜひ，臆せず周りの上司や先輩などに話してみてください。その積み重ねが，会社の事業活動の全ての側面で，物事を良い方向に変えることにつながっていくものと確信しています。



▌コーポレートスローガン「より、そう、ちから。」

さて，皆さんはご存じだと思いますが，当社は，電力の小売全面自由化が始まる前の一昨年の10月に，当社の企業姿勢を示す新たなコーポレートスローガン「より、そう、ちから。」を公表しました。

この「より、そう、ちから。」には，お客さまや地域の皆さまお一人おひとりへの「お約束」が二つ込められています。

一つ目は，お客さまのご期待やご要望に「より沿う」サービスを提供することです。

具体的には，お客さまに当社を引き続き選択していただくため，料金水準，料金プラン，サービスなどについて，「真にお客さまがお求めになるものに沿える」よう，社員が承ったお客さまお一人おひとりのご要望に，これまで以上に耳を傾けながら，さらに磨きをかけ，そして，より一層サービス向上に努めていくことです。

二つ目は，東北6県と新潟県の成長・発展にしっかりと「寄り添う」取り組みを展開することです。

具体的には，「東北6県と新潟県をフランチャイズに事業を営む電力会社として，地域の復興・発展にしっかりと寄り添い，地域とともに成長する」ことを，今後も継続して目指していくことです。

この「より、そう、ちから。」を目に見える形にしていくために，皆さんが仕事を行うに当たって，お客さまや地域の皆さまにとって何が最善なのかを考え，それぞれが考えたことを，言葉だけではなく，行動で実践していただきたいと思います。

皆さんに伝えたいこと

さて，ここからは，私から新入社員の皆さんに，お伝えしたいことを3点，お話しします。

真心を込めて誠実に仕事に取り組もう

1点目は，「お客さまや地域の皆さまのお話をよくお聞きし，真心を込めて誠実に仕事に取り組もう」ということです。

競争の時代だからこそ，社員一人ひとりが，目の前にいらっしゃる，お客さま，地域の皆さまのお声を受け止め，どのように対応するのが最善かを常に考えて，誠心誠意，仕事を全うすること，すなわち「真心を込めた仕事」を進めていくことが大切だと考えています。

「真心」とは，辞書を引くと「他人のために尽くそうという純粋な気持ち。偽りや飾りのない心」という意味とされています。

当社の事業は，さまざまな部門が互いに支え合って成り立っています。直接お客さまや地域の皆さまにお目にかからない仕事であっても，仕事のつながりをたどっていくと，他の部門などを経由して，必ずお客さまや地域の皆さまにつながっています。

社員一人ひとりが「お客さまや地域の皆さまからのご要望やご意見などをよくお聞きし，嘘偽りのない心で，しっかりと相手の立場や置かれている状況をくみ取りながら」，すなわち「真心」を込めて，仕事をすることによって，お客さま，地域の皆さまから「信頼できる会社」という評価をいただくことができるのだと思います。

皆さんも，まずは自分の仕事について，一つ一つの手順やプロセスをしっかりと覚え，きちんと仕上げることを基本に，「窓口にいらっしゃるお客さまからご信頼を得るためにはどうすればよいか」，「次の工程を担う先輩が仕事をしやすいようにするには，どうすればよいか」といったことを常に考え，実践していただきたいと思います。



わくわくした気持ちで挑戦しよう

2点目は，「わくわくした気持ちを持って仕事をしよう」ということです。

先ほどからお話ししておりますが，「当社の存立」を守っていくためには，お客さまや地域社会から，「東北電力なら信頼できる」，「東北電力は地域の一員として欠かせない存在だ」と言っていただくことを，一つ一つ積み上げていくことが大切です。

ただし，「競争に勝ち抜いていかなければならない」，「お客さまの信頼を獲得しなければならない」とガチガチと肩に力を入れ，目を三角にして仕事をするだけでは，長続きしません。

皆さんは，今，これからの新しい生活に不安を抱いている反面，社会人という新たなステージで仕事にチャレンジできるという「わくわくした気持ち」を少なからず持っているものと思います。

新入社員導入教育を終えて，職場に赴任する際には，ぜひ，この「わくわくした気持ち」を大切にしながら，新入社員らしく明るく，前向きに仕事に取り組むことで，周囲の人にもいい刺激を与え，組織を活性化させてほしいと思います。

社会人として責任のある行動をしよう

3点目は「社会人として責任のある行動をしよう」ということです。

お客さまや地域との信頼関係は，当社の事業基盤の基本中の基本です。たった一人の社員の自覚のない行為により，これまで築き上げてきた地域の皆さまからのご支持・ご信頼を失うことになりかねません。

皆さんは，4月1日から東北電力の社員となったわけです。

ぜひ，社会人としての自覚を持つことはもとより，会社で仕事をしている時間中だけではなく，プライベートにおいても，東北電力の社員として恥ずかしくない，責任のある行動に徹してほしいと思います。

結び

最後になりますが，東日本大震災で大きなダメージを受けた東北地域の復興は，未だ道半ばの状況です。

電気事業を取り巻く環境が大きく変わっていく中で，当社は引き続き，東北の復興・発展に貢献し，競争の時代を勝ち抜いていかなければなりません。

お客さまのご要望に「より沿う」こと，地域の皆さまに「寄り添う」ことを常に考え，行動に移しながら，真心を込めて誠実に，そして前向きに仕事に取り組んでいきましょう。こうした努力を重ねることが，これからの厳しい競争の時代を乗り切る原動力になるものと確信しています。

皆さん一人ひとりが，「新しい東北をつくる・新しい東北電力をつくる担い手」であるとの気概を持って活躍されることを期待して，私からのお祝いの言葉といたします。

あらためて入社おめでとう。一緒に頑張りましょう。



辞令交付





新入社員代表

青森技術センター発変電業務課

黒川 真行 さん

平成29年度 入社式

誓いの言葉



本日は,私たち新入社員のために,このような素晴らしい入社式を開催していただきまして,誠にありがとうございます。新入社員を代表し,心より御礼申し上げます。

ただいま,原田社長から貴重なお言葉を頂戴し,ここに並んでいる同期の仲間と共に東北電力の一員として新たな一歩を踏みだせる喜びをかみしめつつも,責任ある社会人として,それぞれが決意を新たにし,身の引き締まる思いであります。

今年の3月で東日本大震災から6年が経ちました。震災当時,暗闇の中で不安な夜を過ごしたこと,そして,電気が復旧した時の安心感を今でも,はっきりと覚えています。それと同時に,これまで当たり前であった電気のありがたさ,その影響の大きさを痛感した経験でもありました。

被災地域では,復興に向けた取り組みが今も続いていますが,一つ一つの復興の芽を大きく成長させるためにも,私たちには,人々の生活の「当たり前」をしっかりと支え,「安心」を届ける責務があると思います。私たち一人ひとりが,東北・新潟地域の生活や経済を支えているという責任と自覚をしっかりと持ち,東北・新潟地域の発展に貢献してきた諸先輩方の伝統と精神を受け継いで,さらなる成長に向け,力を尽くして参ります。

昨年4月には電力の小売全面自由化が開始され,今月からはガスの小売自由化,3年後には送配電部門の法的分離が予定されています。海外でも,イギリスのEU離脱やアメリカのトランプ新政権誕生など,国内外ともに変化の激しい時代にあります。このような時代だからこそ,いつの時代も変わらない「電力の安定供給を通して,地域の発展に貢献する」という使命のために,私たち新入社員もそれぞれがしっかりと役割を果たし,さまざまなことにチャレンジしていかなければならないと強く感じております。

お客さま・地域の皆さまに常に寄り添い,その声に謙虚に耳を傾け,ご要望により沿い,会社として,あるいは自分自身として何ができるか,しっかりと考えて,「より、そう、ちから。」を実践してまいります。

本日,新たなスタートを切った私たちはまだまだ知識も経験も浅く,これから多くのことを学んでいく必要があります。はじめは教えをいただくことばかりであると思いますが,一日も早く地域や会社に貢献できるよう,日々の努力を怠らず,研さんに励んでまいりますので,役員の皆さまをはじめ,先輩社員の皆さまには,ぜひ温かく,ときには厳しくご指導,ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが,私たちは,本日いただいた数々のお言葉と,確固たる決意を決して忘れることなく,東北電力の社員としての誇りと使命感を胸に,誠実に職務を遂行してまいります。そして,さらなる成長のために,さまざまなことに挑戦し続けることをお誓いし,新入社員代表の言葉とさせていただきます。

平成29年4月3日　新入社員代表　佐々木 侑



平成29年度
新入社員の皆さん

274人の新しい仲間です

本店	9人	山形支店	20人
青森支店	25人	福島支店	47人
岩手支店	23人	新潟支店	40人
秋田支店	21人	火力発電所・建設所	21人
宮城支店	35人	原子力発電所	33人

（1人病気欠席）



本　　店



青森支店



岩　手　支　店



秋　田　支　店



宮　城　支　店



山　形　支　店



福　島　支　店



新　潟　支　店



火力発電所･建設所



原子力発電所

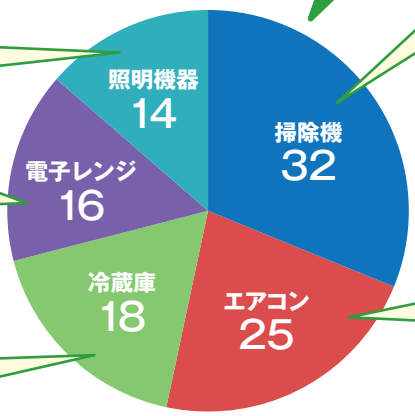
新入社員へアンケート!

希望に胸を膨らませ社会に第一歩を踏み出した新入社員の皆さんにアンケートに答えてもらいました。“変革のとき”に，皆さんはどんな気持ちでわが社へ入社したのでしょうか。

こんな皆さんです!

自分を「電気製品」にたとえると?

TOP5（自由記述式）



「明るい性格だから」という理由が多数！少ないエネルギーで明るく照らすLEDという回答も目立ちました

理　由
- ●人々と温かい関係を築けるから
- ●場を暖めることが得意だから

「ONとOFFの差が激しいから」という理由も

理　由
- ●常に誰からも必要とされる存在になりたい
- ●常にどんと構えたい
- ●一見クールだが，触れると意外と温かい

理　由
- ●技能・知識を吸収したいから
- ●周りの人の不安を吸い取るくらい明るい人になりたい

「ロボット掃除機」という回答も多数
- ●自分から動く
- ●誰も見ていなくても，やるべきことを地道に努力できる

理　由
- ●思考するときは冷静に，行動するときは熱い気持ちで
- ●周りの雰囲気に合わせて行動できる
- ●さまざまな気遣いができる
- ●協調性を持って，周囲が快適に過ごせるような雰囲気づくりができる

自動で人を感知するような，高性能エアコンの普及が背景に見える回答に…

その他「パソコン：12」,「テレビ：9」,「変圧器：8」,「ストーブ：7」など

期待でワクワク!

社会人生活で楽しみなことは?

TOP5（複数回答可/2つまで）

1位	さまざまな人との出会い	211人
2位	地域や社会に貢献できる	111人
3位	稼いだ給料で高価な買い物をする（車，海外旅行など）	86人
4位	一人暮らし	34人
5位	大人として見てもらえる	29人

こんな声も…
「貯金すること」
「お世話になった人に恩返しができること」
「会社の人，地域の人の価値観に触れること」

でも少し不安…

社会人生活で不安なことは?

TOP5（複数回答可/2つまで）

1位	仕事を覚えられるか	180人
2位	上司・先輩とうまくやっていけるか	179人
3位	プライベートと仕事のバランスがとれるか	64人
4位	独身寮の居心地	39人
5位	地域にうまく溶け込めるか	26人

こんな声も…
「臨機応変に行動できるか」
「一人暮らしができるか」
「ホームシックにならないか」

これが「強み」!

自分の強みだと思う力は?

1位	協調性	143人	5位	実行力	49人
2位	忍耐力	136人	6位	主体性	35人
3位	計画力	58人	7位	創造力	21人
4位	柔軟性	52人	8位	折衝力	11人

昨年度に引き続き，「協調性」が自分の強みだと思っている人が最も多く，次に，「忍耐力」が挙げられました。当社を取り巻くさまざまな変化は始まったばかりです。社員一丸となって，辛抱強く変化に対応し，進化していく力に変えていきましょう。

これから頑張ります!

これから鍛えたいと思う力は?

1位	創造力	109人	5位	柔軟性	69人
2位	主体性	89人	6位	折衝力	33人
3位	実行力	77人	7位	忍耐力	30人
4位	計画力	72人	8位	協調性	23人

「創造力」を鍛えたい人が最も多く，「主体性」,「実行力」と続きました。昨年度と比較すると2位にランクインしていた「折衝力」が6位となり，「柔軟性」を鍛えたいと思う人が昨年度の約2倍の人数となりました。先輩社員の下で経験を積んで培っていきましょう!

大きな野望!?

社会人・企業人として，いつか実現したい「野望」を語ってください！

（自由記述式）

- BRIDGEで取り上げられる活躍をする！
- 男性に負けないくらいの技術，体力を身に付け，女性技術者を増やす！
- 東北地域を日本一元気な地域にする！
- 日本初といわれるような技術導入に挑戦したい！
- 世界一の親孝行をする！
- 地域や社会に貢献するために努力し，電気のスペシャリストになり「ノーベル賞」を受賞する！
- 海外へ留学し，語学や専門知識・資格の習得はもちろん，人間としてもスキルアップして，会社と地域に貢献できる実力派ウーマンになる！

このほかに，「憧れのマイホームを持つ」や「社長になる」，「オリンピックに出て会社を有名にする！」など，たくさんの大きな野望を聞くことができました！ BRIDGEで取材できる日が楽しみです！

“東北電力”について思うこと

東北電力に入社したいと思った一番の理由は？

（自由記述式）

- 生まれ育った東北・新潟の地に恩返しをしたいと考えたため
- 3月11日の震災で電気のありがたみをあらためて知り，生まれ育った東北・新潟に恩返しをしたいと思ったため
- 社員の人が魅力的だったから
- 電力というライフラインを通じて地元の人々の生活を支えたいと考えたから
- 電柱で作業している姿がかっこよかったので
- もともと電気にかかわる仕事に就き，ライフラインを支えたいと考えていたが，「より、そう、ちから。」の地域に対する熱い思いに心惹かれたから
- 変革期を迎える電力業界に身を投じてみたかった

ずばり，東北電力社員のイメージ・印象は？

（自由記述式）



- 気さくで話しやすく，自身の職務にやりがいを持っていると感じた
- お客さまを第一に考え，安心・安全を踏まえた行動をしている
- 実直
- 誠実
- 東北のためにという使命感が強く会社全体で共有できている
- 地域との関わりを大切にしている
- 少し堅いイメージ，まじめ，プロフェッショナル
- 地域の方々への思いが強く，憧れの存在



多くの方が，「地域への思い」を胸に，大きな期待と不安を抱きながら入社を迎えたようです。この思いを大切に，これから配属先で頑張ってくださいね！ 先輩社員の皆さんが，きっと皆さんの力になってくれますよ。



新入社員の皆さんに，今後の意気込みを自由に表現してもらいました。BRIDGE担当者からの“ムチャぶり”にも見事に応えて，驚きの力作ぞろい。力強く頼もしい宣言がたくさんありました。

“My スローガン”部門

東北電力のコーポレートスローガンは「より、そう、ちから。」あなたの「My スローガン」を教えて！

（自由記述式）

飽くなき挑戦、限りなき前進
社会人として何事にも挑戦し，成長したい

輝くは己から
地域を明るく照らすには，まず自分が輝き，会社を明るくしていきたい

いつでも、どこでも、だれにでも
どんな状況でも東北電力社員としての自覚を持って行動する

明日へつなぐための一歩
努力を積み重ねていき，小さな一歩が大きな成果へ変わるという意味を込めました

聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥
積極的に質問して分からないところを分かるようにしたい

やって、みとめて、あらためて。
自分で経験して得たものをきちんと認め，受け入れて自分を改めていきたい

こころみる
工夫して挑戦する「試みる」，「心を見て」思いやりがある行動

見て、聞いて、前進
周りの人の良いところを見て，ご指導があればしっかり聞いて，人として前進したいという思いを，自動車学校で教官が踏切を渡るときに言っていた言葉に込めました

“私の漢字”部門

「こんな社員になりたい！」の気持ちを漢字一文字で表現して！

（自由記述式）



まだまだ未熟ですが，地域・会社・自身の行動に誇りを持って働けるよう頑張りたい



どんなことにも挑戦していきたい



明確な目標を立て，達成するまで挑戦し続ける



自信を持って働ける社会人になりたい。
周りの仲間と自分自身を信じて働きたい



人と繋がり，協力し，助け合うことを心掛けていきたい



ひた向きに，前向きに，向上心を持って働きたい



日々，より良いことを自ら考えて実行に移す



全ての出来事や出会いの縁を大切にしたい



地域と調和し，仲間との和を大切にする社員になりたい

「新入社員導入教育」で頑張ってきました!



入社式を終えた新入社員は4月3日から17日までの約2週間,総合研修センターで新入社員導入教育を受講しました。その様子を一部ご紹介します。

“東北電力”をよく知ろう!

社内基礎知識などに関わる講義

まずは,東北電力社員として必要な基礎知識について,各部門の方が講師となって講義が行われました。



▲東北電力ブランドに関する講義の様子



▲隣同士での意見交換や,感想の発表

東北電力の社員になったと実感し,これからの行動に責任を持たなければいけないと思いました!

【ボイス】

新入社員VOICE

集団行動に挑戦!

自衛隊教練

例年,自衛隊福島駐屯地の方を招いて行われている自衛隊教練。集団行動を通して,規律・団結・士気の重要性を学びました。



▲大きな掛け声に合わせて足並みをそろえる



▼号令役にも挑戦

集団行動教練を通して,同期の仲間と絆が深まった気がします!

【ボイス】

新入社員VOICE

実際に見てみよう!

発電所見学

各班に分かれて,原町火力発電所や女川原子力発電所を見学。震災時の様子や復興までの道のりの説明も受けました。



▲震災時の様子にも触れながら,新入社員へ「逃げることなく立ち向かっていきましょう」とエールを贈る佐藤原町火力発電所長



実際に働いている社員を見て,自分もこんな風に職場で働くんだなとイメージが膨らみました!

【ボイス】

新入社員VOICE

土曜日や日曜日には,自主的に参加することもできる活動も用意されており,南相馬市内の清掃活動や座禅,IT活用研修,献血のほか,今年は新たにTOEICのプログラムも追加されました。

日に日に社員としての自覚を強め,真剣な表情が見られる新入社員の皆さん。
これからも,職場でたくさんのことを吸収していってくれることを期待しています。

平成29年度 供給計画の概要

当社は，このたび，電気事業法の規定および電力広域的運営推進機関（以下，広域機関）の送配電等業務指針の規定に基づき，「発電事業」および「小売電気事業」，ならびに「送配電事業」の平成29年度供給計画届出書を，広域機関に提出しました。

供給計画は，今後10年間の電力需要の見通しや電力需給の計画などを取りまとめたもので，電気事業法第29条に基づき，計画対象年度の前年度末までに，広域機関を経由して経済産業大臣に届け出を行うものです。

供給計画における電源開発計画の概要

●電源開発計画

平成29年度供給計画では，新たな電源開発計画として，高効率火力の一層の活用により，さらなる供給力確保とコスト競争力の強化を図ることを目的に，仙台火力発電所4号機（宮城県七ヶ浜町）および新仙台火力発電所3号系列（仙台市宮城野区）の増出力を計上しました。

設　備	地点名	出力（万kW）	着　工	運転開始
原子力	東通2号（青森県東通村）	138.5	未　定	未　定
火　力	**仙台4号（宮城県七ヶ浜町）**	**44.6→46.8（2.2増）**	**－**	**平成29年4月（出力増）**
	新仙台3号系列（仙台市宮城野区）	**98.0→104.6（6.6増）**	**－**	**平成29年7月（出力増）**
	能代3号（秋田県能代市）	60.0	平成28年1月	平成32年6月
	上越1号（新潟県上越市）	57.2	平成31年5月	平成35年6月
	粟島7～10号（新潟県粟島浦村）	合計0.09	平成26年9月	**平成29年12月～平成31年10月**
新エネ	柳津西山地熱（福島県柳津町）	6.5→3.0（3.5減）	－	**平成29年7月（出力減）**
水　力	鹿瀬1・2号（新潟県阿賀町）	4.95→5.42（0.47増）	－	平成29年9月（出力増）

●廃止計画

設　備	地点名	出力（万kW）	廃止時期
火　力	粟島2～6号※（新潟県粟島浦村）	合計0.09	**平成26年9月～平成31年10月**

※粟島7～10号新設に伴う廃止，2号は平成26年9月廃止済

今回の計画においての新規・変更箇所については**青字**で表示しています

供給計画における送変電整備計画の概要

●送変電整備計画

平成29年度供給計画では，今年2月に広域機関が策定し，当社が事業実施主体となっている「東北東京間連系線に係る広域系統整備計画」関連工事などを新たに計上しました。

設　備	工事件名	設備概要	着　工	使用開始
送　電	南山形幹線新設	275kV（500kV設計）／23km	平成27年4月	**平成29年12月**
	東花巻支線新設	275kV／3km	平成28年2月	平成29年10月
	交直変換所引込	275kV／2km	平成28年8月	平成30年6月
	名取変電所引込	275kV／0.4km	平成30年4月	平成31年6月
	1408G02支線新設※1	**500kV／3km**	**平成29年8月**	**平成31年7月**
	広域連系北幹線新設※2	**500kV／81km**	**平成34年9月**	**平成39年11月**
	広域連系南幹線新設※2	**500kV／62km**	**平成36年9月**	**平成39年11月**
	相馬双葉幹線接続変更※2	**500kV／15km**	**平成34年4月**	**平成37年11月**
	新地火力線広域連系開閉所引込※2	**500kV／1km**	**平成36年7月**	**平成38年6月**
	常磐幹線広域連系開閉所引込※2	**500kV／1km**	**平成37年5月**	**平成38年7月**
	広域連系開閉所新設※2	**500kV／10回線**	**平成35年5月**	**平成39年11月※3**
変　電	東花巻変電所新設	275/154kV／30万kVA 2台	平成27年3月	平成29年10月
	宮城中央変電所増設	500/275kV／100万kVA 1台	平成28年2月	平成30年11月
	名取変電所新設	275/154kV／45万kVA 2台	平成29年2月	平成31年6月
	本名変電所容量変更	275/154kV／12万kVA 1台→15万kVA 1台	平成29年8月	**平成30年9月**

※1 他社申込に伴う送電線新設工事のため，名称を符号化　※2「東北東京間連系線に係る広域系統整備計画」関連工事。ただし，送電線および開閉所の名称は仮称　※3 平成38年6月一部使用開始

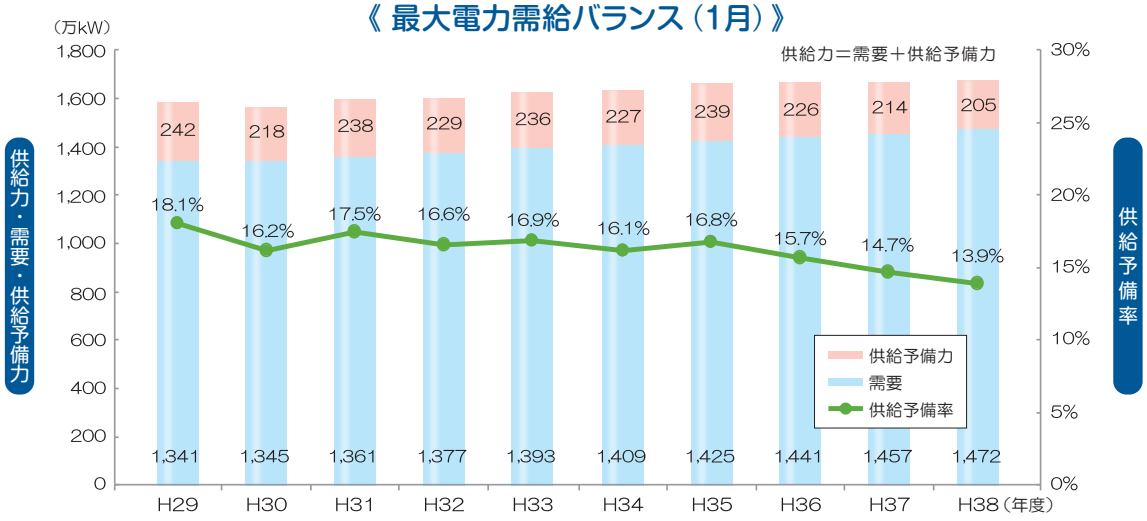
今回の計画においての新規・変更箇所については**青字**で表示しています

当社サービスエリア（東北6県と新潟県）における電力需給バランス

当社は，各事業者（発電，小売，送配電）の供給計画を踏まえ，当社サービスエリア（東北6県と新潟県）における今後10年間の電力需給バランスを策定し，広域機関に提出しました。

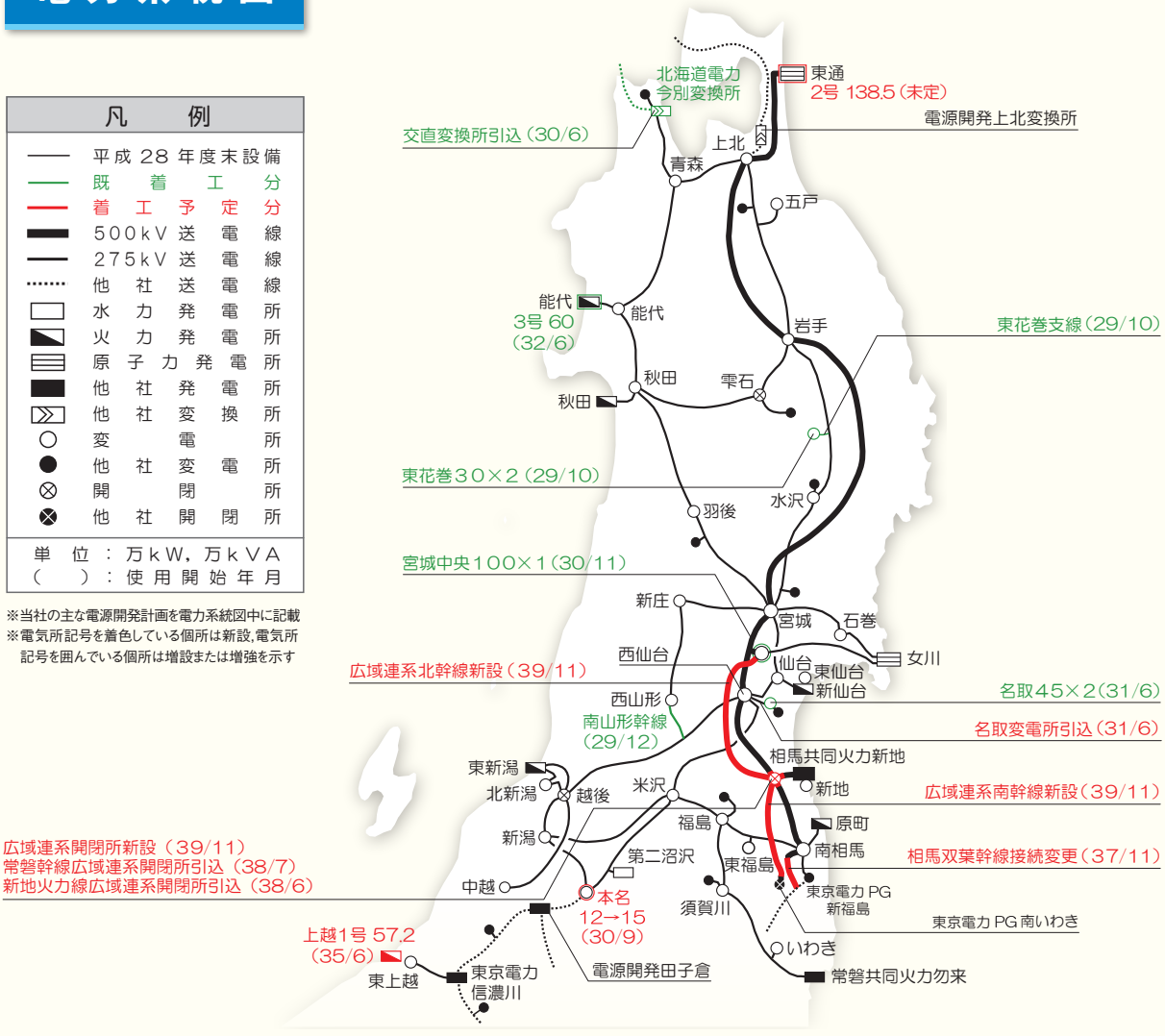
その後，広域機関より電力需給バランスに関する評価が公表され，下図のとおり，各年度ともに，安定供給の目安となる供給予備率8%以上を確保できる見通しとなっています。

《 最大電力需給バランス（1月）》



※需要については，近年の実績等を踏まえ，年間最大が1月に発生するものと想定

電力系統図



Topics
考査室・人財部

「安全・保安方針」を改正
～ 一人ひとりが,さらなる安全行動を! ～

「安全・保安方針」は,全ての従業員が,安全への認識や思考を共有し,適切な行動を取るための指針として,平成20年に制定されました。本方針は制定から8年余りが経過し,安全確保最優先と法令遵守意識の定着が図られてきていますが,労働災害や設備トラブルの発生状況とその背景にある根本的要因に鑑み,これまでの方針の基本原則は堅持した上で,新たに一人ひとりの具体的な安全行動をさらに促す観点から、改正を行いました。

<安全・保安方針>
平成29日4月1日改正

安全・保安方針

私たちは,「気づく・話す・直す」の３つの視点で,法令・ルールを遵守し,たゆまぬＰＤＣＡ活動を行うことにより,継続的に安全と保安を確保することを決意し,安全・保安方針を定める。

1．常に安全確保を最優先に行動する。

2．立ち止まる勇気を持つ。 ―― ポイント①

3．常に問い直し,問いかける習慣を持つ。 ―― ポイント②

4．自らの役割と責任を自覚し行動する。 ―― ポイント③

5．コミュニケーションを常に心がけ,情報を共有する。

平成 29 年 4 月 1 日

東北電力株式会社
取締役社長　原田　宏哉

<具体的な改正ポイント>

①	立ち止まる勇気	・リスクに気づいたとき,ためらわずに立ち止まることが求められる ・迷いを乗り越えるための心の持ちよう
②	問いかける	・仲間に対する問いかけや相互注意　・仲間への思いやり ・積極的情報共有
③	自らの役割と責任を自覚し行動する	・業務を遂行するに当たって一人ひとりが自覚すべき基本認識 ・安全と保安では事故防止のため絶対に欠かせないもの

◆自らの行動はもちろん,仲間に対する働きかけができるレベル(相互啓発型)へと発展させて,チームとしての取り組みで事故を防止していくことを目指します
◆一人ひとりの「行動」が「守るべき大切なもの」につながっていくということを意識しましょう

安全・保安方針改正の背景

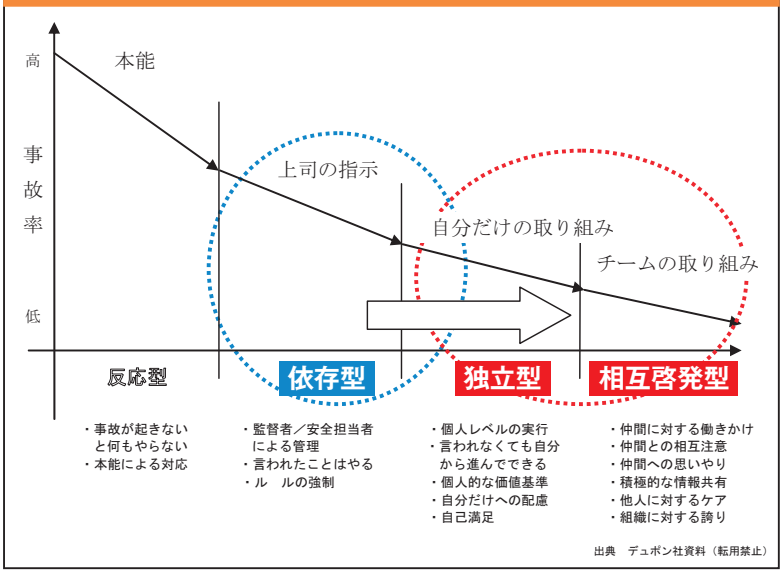
安全・保安方針の浸透とともに，法令遵守意識の定着が図られてきている一方で，労働安全については，平成27・28年度に死亡災害・感電災害などの重大災害が多発し，ヒューマンファクターに起因した設備トラブルも連続して発生しました。

これら重大災害に共通する根本的な要因分析・調査を行ったところ，当社の安全重視の姿勢は，工事会社の方々にも広く認識されるなど，素晴らしい文化を有していると第三者機関からも評価されている一方で，「それくらい分かっているだろうとの思い込み」，「作業関係者個々が自らの役割を果たしていない」などの要因が新たに浮き彫りとなりました。

こうした「他者依存」ともいえる兆候は，特定の事業所や部門だけの課題ではなく，当社全体の安全文化の一つの実態を示しており，当社のこれまでの安全文化構築活動において不足していた側面と考えられます。そのため，当社はこうした「**依存型**」の安全文化から脱却し，「**独立型**」へ，そして「**相互啓発型**」の安全文化への発展を目指して再構築活動に取り組むとともに，その基本となる安全・保安方針についても，より具体的な安全行動に結び付くようにとの観点で改正を行いました。

＜安全文化の発展モデル＞

参考:ブラッドリーカーブ（デュポン社）のイメージ図



社員の皆さんには，日々の唱和などを通じて新たな基本原則を心にしっかりと刻み，「気づく・話す・直す」の3つの視点を常に意識しながら，これまで以上に強い思いで労働安全と設備保安の確保に向けた行動をお願いします。

また，当社事業に関係する方々にも，改正された安全・保安方針の言葉の一つ一つに込められた思いを理解していただき，全ての関係者が一体となって，心がけだけではなく実践につなげるよう徹底し，災害ゼロの達成に取り組んでいただくようお願いします。



グループ企業や工事関係者へ安全文化再構築への取り組みを呼びかける共通ポスター



Topics
広報・地域交流部

地域の方々との信頼関係の構築に向けて

「リスクコミュニケーション研修」を実施（上）



講師

大阪大学
COデザインセンター
准教授　八木　絵香氏
（科学技術社会論・ヒューマンファクター研究）

- 平成17年，東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了（工学博士）。
- 在学中の指導教授が北村正晴氏。北村氏とともに，女川町および六ヶ所村などにおいて原子力をテーマに地域住民との対話活動を実践。
- 主な研究テーマは，原子力など社会的に意見が対立する科学技術の問題について，意見や利害の異なる人同士が対話・協働する場の企画，運営，評価。

原子力に対する不信・不安が依然として根強い中で，当社の最重要課題である原子力発電所再稼働に対する地域社会の理解と当社に対する信頼を得ていくためには，「地域に寄り添った」対話活動を全社一丸となって進めていく必要があります。

広報・地域交流部と宮城支店では，こうした取り組みについて，学識者の方からご意見・ご助言をいただく機会として，宮城支店管内のエネルギー・コミュニケーターなどを対象に「リスクコミュニケーション研修」を実施しました。

本研修では，東北大学名誉教授の北村正晴氏ならびに大阪大学准教授の八木絵香氏を講師としてお招きし，地域の方々との信頼関係構築に向けたリスクコミュニケーションのあり方などについて講義いただきました。今月号では八木先生の講義のポイントをお伝えします。

（北村先生の講義については，来月号でお知らせする予定です）

当社における「原子力リスクコミュニケーション」の位置付け

原子力発電に起因するリスクを前提に，地域の方々の懸念や意見を取り込みながら，リスク情報を共有することにより相互理解を図り，リスク低減に向けた仕組みづくりを通して，信頼関係を構築していくコミュニケーション方法

リスクコミュニケーションと地域の方々との信頼

リスクコミュニケーションとは，ある科学技術が抱えるリスクに関して，国や事業者，専門家などと一般市民が，「どの程度のリスクなのか」，「そのリスクにどう対応するのか」，「どの程度のリスクならば許容できるのか」などについて対話し，その問題を共に考え，多様な情報やその情報の見方を共有するためのコミュニケーションです。よって，リスクコミュニケーションは，再稼働のための「特効薬」ではありません。仮に再稼働したからといって終わるものでもありません。終わりのない，とても地道な活動ですが，地域の方々との信頼関係構築のためには非常に重要な活動です。

東北電力としては，いずれ時期が来れば，地域の方々に再稼働のお願いをすることになる方向で事業を進められていると聞いています。ただし，その「お願い」とリスクコミュニケーションは，まずは切り離して考えることが必要です。**今，社員の皆さんに求められるのは，地域の方々の不安や懸念を聴き，それを自らの業務や組織としての事業に反映することはできないか考えることです。**



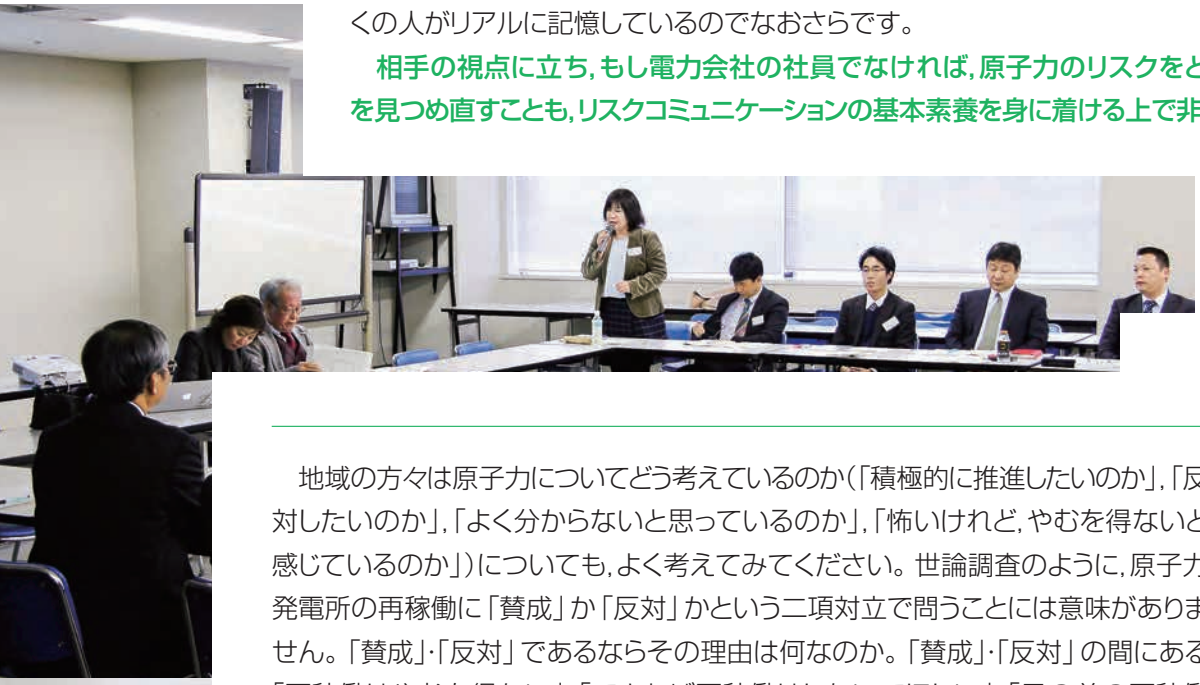


原子力を怖がるのはおかしいですか？

電力会社の方々からは，「原子力が怖いという声にどのように応答すればよいのか」という質問を受けることがよくあります。しかし，福島第一原子力発電所の事故を目の当たりにしてしまった今，「原子力を怖がらない」ということは，非常に難しいのではないでしょうか。むしろ**電力会社の皆さんが，「地域の方々が原子力を怖いと思うことは当たり前」と受け止めることこそが，リスクコミュニケーションの基本的な姿勢としては重要です。**

リスクを「確率」で判断するのはリスクを管理する側の視点です。しかし，地域の方々は個人的な視点からリスクをみています。つまり，確率（○○人中○人）ではなく，「自分は大丈夫?」，「うちの子は大丈夫?」と心配しているのです。このような心配に対し，「全体で見れば，百万分の1程度のリスクは容認できる」，「ほぼ無視できるほどリスクは低い」という回答は意味を持ちません。自分が専門でないこと，危ないという言説がある科学技術については，人々が不安を感じるのは普通のことです。まして，原子力発電所については，実際に起こった事故を多くの人がリアルに記憶しているのでなおさらです。

相手の視点に立ち，もし電力会社の社員でなければ，原子力のリスクをどのように感じるのかを見つめ直すことも，リスクコミュニケーションの基本素養を身に着ける上で非常に重要なことです。



言葉の奥にある真意に耳を傾ける

地域の方々は原子力についてどう考えているのか（「積極的に推進したいのか」，「反対したいのか」，「よく分からないと思っているのか」，「怖いけれど，やむを得ないと感じているのか」）についても，よく考えてみてください。世論調査のように，原子力発電所の再稼働に「賛成」か「反対」かという二項対立で問うことには意味がありません。「賛成」·「反対」であるならその理由は何なのか。「賛成」·「反対」の間にある「再稼働はやむを得ない」，「できれば再稼働はしないでほしい」，「目の前の再稼働はやむを得ないが長期的には脱原発がいい」という声にどのように答えていくのか。

「地域住民」とひとくくりにするのではなく，まずは，目の前にいるその方が，どのようなことを考えているのか，しっかりと耳を傾けてください。





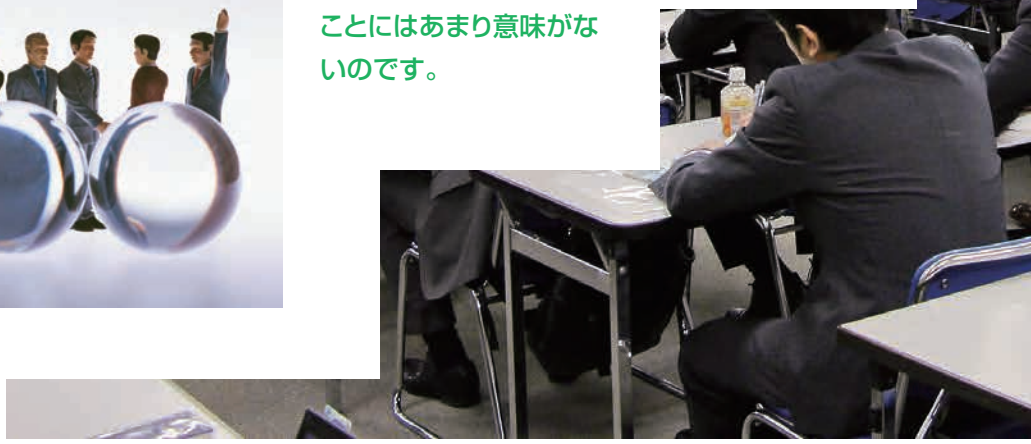
原子力発電所の再稼働は誰のため？

安全に関するコミュニケーションが重要であると同時に，大切なことは，原子力がなぜ必要なのかについて，地域の方々と意見を交わすことです。電力会社の皆さんは，「安定供給確保や経済性，環境保全（いわゆる「3E」）の観点から原子力は必要」という認識は当たり前だと思っているでしょう。

しかし，一般の方々はそうではありません。それどころか**「原子力発電所を再稼働しようとしているのは，電力会社の利益のため」と思っている人も少なくありません。**まずは，そのような方に対して，なぜ原子力発電所を再稼働する必要があると皆さんが考えるのか，について積極的に伝えてみてください。

さまざまな世論調査やアンケート結果を分析してみると，「原子力が必要」という考えと「原子力は安全」という考えの間には相関があります。「安全かどうか（リスクを許容するかどうか）」という問い掛けには，そのリスクを取ることによって得られるメリットとの比較をして初めて回答することができます。つまり**必要性について議論せずに，「安全かどうか」を問うことにはあまり意味がないのです。**





自分の言葉で語る

必要性の議論についてもう一つ重要なことは，「3E」という言葉を，会社から与えられたお題目として使わないということです。この「3E」は皆さんにとっても納得のいく説明になっているでしょうか。自らを生活者として捉え直した時に，その言葉は皆さんの胸に響きますか。「原子力発電は賠償金や廃炉費用を含めると他の発電より高いのでは？」，「これだけの放射性物質を環境にまき散らしておいて，環境にやさしいと言われても…」と地域の方々に問われたとき，皆さんはそれにどう答えますか。**言葉だけの3Eの概念をいくら説明しても地域の方々の心に響かないのは当たり前です。**これは安全性向上に向けた取り組みの説明でも同じことだと思います。

世の中の多くの人は「原子力がない世界を望みたい」という希望を持っています。電力会社の社員の立場では，そのような意見に同意できないという意見も聞きます。私自身も講演でお叱りを受けることもあります。それでも，まずは「福島第一原子力発電所の事故を考えると，そのように思われる気持ちはよく分かる」と受け止められるようになってください。これは言葉だけで受け止めるという意味ではありません。その上で，会社から与えられたお題目としてではなく，**皆さんの言葉で「あれだけの被害を出してもなお，当面，原子力は必要だと思っています。なぜなら…」という形で語る言葉を見つけ出してほしいと思います。これは難しいことだと思います。しかし，地域と共に原子力発電所を運営するということは，そのように社員一人ひとりが語る言葉を持つということではないでしょうか。**



社員にも寄り添う

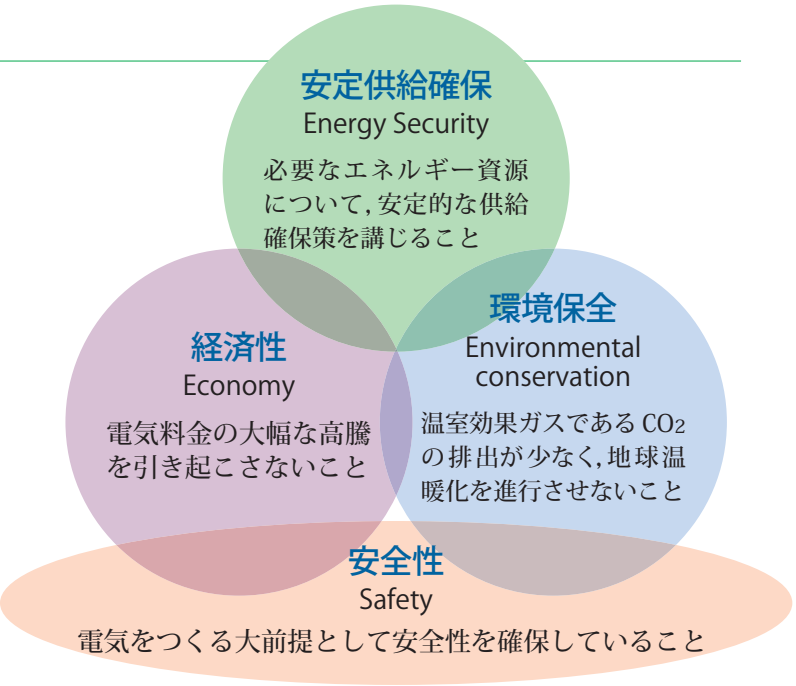
一方で，電力会社の社員の皆さんが抱える社会からのプレッシャーの高さも気になっています。社員の皆さんが地域の方々と真摯な対話に努める一方，原子力に否定的な意見をお持ちの方々からの理不尽な言動に耐えざるを得ない苦労を耳にすることも少なくありません。現場の社員が地域の方々の想いに寄り添うことはとても大切です。その一方で，そのような社員に対して，会社は寄り添えているでしょうか。地域住民に寄り添えば寄り添うほど，住民と会社の間で板ばさみになり，社員は強いストレスを感じるようになる可能性もあります。**会社（組織）が社員に寄り添わなければ，本当の意味で社員が地域住民に寄り添うことはできないと思います。**



今後に向けて

「リスクコミュニケーションをすること」が目的ではありません。本日の講義を参考に，リスクコミュニケーションの観点から現在の取り組みを振り返り，改善すべき点はないかどうか考えてみてください。

「S+3E」の概念図



八木先生からの講義のポイント

- リスクコミュニケーションは原子力発電所再稼働の「特効薬」にはならないが，地域との「信頼関係構築」においては非常に重要な取り組みである。
- 原子力を怖がらないようになってもらうことはほぼ不可能。「原子力を怖いと思うことは当たり前」と受け止めることがまずは重要（安全性の向上に向けた取り組みの説明はその後で）。
- 「なぜ原子力は必要だと思うのか」について，会社の方針ではなく，自らの言葉として語れるよう，回答を見つけ出すことが重要。

Topics
電力システム部

「安全文化改革ミーティング ～Change our Mindset いま変革のとき～」開催

電力システム部門は，3月7日に「安全文化改革ミーティング～Change our Mindset いま変革のとき～」を開催しました。電力システム部門では，災害防止のため，職場風土や安全文化といった根底からの見直しが必要との認識の下，組織を挙げて既存文化からの脱却，自己変革の取り組みを展開していくこととしています。その一環として，全支店，全技術センターから，送電部門，発変電部門の代表者と請負工事会社を含めた約150人が参加するミーティングを実施しました。

このミーティングは，4月から5月にかけて，管内の全技術センターに展開していきます。

ミーティングでは，今年度，発変電部門の災害要因分析を行った日本ヒューマンファクター研究所による外部の視点から見た電力システム部門の安全文化についての報告を聴講するとともに，安全意識向上のため災害事例検討のワークショップを実施し，参加者から検討結果について発表を行い意識改革についての思いを共有しました。


安全文化に関する報告に耳を傾ける参加者


各グループで活発に意見が交わされた


グループでの検討結果を全体で共有

安全文化再構築に向けた 電力システム部門スローガン

「Change our Mindset いま変革のとき」

以上のような取り組みを第一線事業所までに浸透させるため，平成29年のモットー「さらなる成長に向け，いま変革のとき」から，従来の安全文化に対するわれわれの意識を変えていく意味で「～Change our Mindsetいま変革のとき～」を部門のスローガンとして定めました。

今後，この安全文化改革ミーティングを各技術センター単位で展開するなど，所属員一人ひとりが既存文化からの脱却，自己変革の取り組みを展開していくための施策を行っていきます。

地域とともに
— そしてこれからも —

第15回

「ラグビーワールドカップ」を応援!
～イベントを通して地域への思いを新たに～

地域協調の取り組みは，当社創立時の「東北の繁栄なくして当社の発展なし」という基本理念の下で続く，当社を象徴する取り組みの一つです。

小売全面自由化や今後の送配電部門の法的分離により経営環境が大きく変化する中にあっても，地域に溶け込んで積極的にコミュニケーションを図ることは，地域からの信頼をより強固にするだけでなく，その信頼が当社ブランドにつながり，競争に勝ち抜くためのベースが構築されていくこととなります。

この機会に，地域協調の意義・重要性をあらためて考えてみませんか？

2019年に日本で開催される「ラグビーワールドカップ」において，釜石市が会場の一つとして選ばれています（当社管内で唯一）。これを受けて，岩手支店全体でその盛り上げに取り組んでいます。

子どもたちにラグビーを！

「タグラグビー交流大会」を開催

地域振興につながると注目されているワールドカップの開催に向けて，当社もその盛り上げの手助けをしたいと考え，県の中心である盛岡市で「タグラグビー交流大会」を開催しました。



◀大会には，いまだ仮設住宅での生活を余儀なくされている沿岸地域からも子どもたちが参加し，熱戦を繰り広げた



▶地元ラグビー協会や大学，NPO，チアダンスチームなど多くの協力の下，大会を開催

「タグラグビーセット」を寄贈

釜石営業所と盛岡営業所は，小学校での授業やスポーツ振興事業に役立てていただくことを目的に，釜石市，盛岡市，紫波町に対し「タグラグビーセット」（各10セット）を寄贈しました。



有川釜石営業所長（一番右）から釜石市へ寄贈



佐竹盛岡営業所長（右）から盛岡市へ寄贈

各自治体からは，「有効に活用し，次世代へのラグビー普及，ワールドカップの盛り上げを図っていく」と感謝の言葉をいただいた

タグラグビーとは？

相手選手を止めるために，タックルの代わりに，相手選手の腰に付けたタグを取ります。簡単なルールで誰でも楽しく安全にプレーすることができる競技です。



復興のシンボルとなる「ラグビーワールドカップ」

かつてはラグビー王国と呼ばれた岩手。中でもワールドカップの会場となる釜石市は，日本選手権7連覇を成し遂げた新日鉄釜石ラグビー部（現：釜石シーウェイブス）で有名なラグビーのまちです。ワールドカップを契機に，岩手県内のラグビー熱を再燃させ，地域振興にもつながることが期待されます。

担当者の声

大会では，子どもたちの一生懸命な姿や，わが子のプレーに一喜一憂する保護者の皆さんのまなざしに触れ，あらためて，地域の未来を担う子どもたちの健やかな成長をしっかり応援していきたいと感じました。「また参加したい」，「優勝して東北電力カップが欲しい」と思っていただけるような大会にできるよう取り組んでいきます。



盛岡営業所 総務課
千葉 伸行 担当副長

元釜石シーウェイブスの当社社員も大会を支援



盛岡営業所
お客さまサービス課
高橋 宏助 さん
（釜石シーウェイブス在籍 2002～2004年）

釜石シーウェイブスに所属していた当時，釜石をはじめとする地域の方々に，いつも熱い応援をいただきました。地域へ何か恩返しをしたいと考えているところに，当社主催のタグラグビー交流大会で，総務課以外からも運営メンバーを募っていることを知り，大会運営のお手伝いをさせていただくことにしました。

県内の次世代層へタグラグビーを広め，ワールドカップの盛り上げを図るとともに，地域の方々への感謝を忘れず，これからも地域の一員としてさまざまな活動に取り組んでいきたいと思っています。

第34回 新仙台火力発電所 LNG運転グループ 編

とうほくでんりょくぶんのいち

1/東北電力

～「よりそう」現場からのレポート～

今回の主役 数少ないLNGのプロフェッショナルとして大きな期待を背負う技術者



新仙台火力発電所
LNG運転グループ
佐藤 貴洋さん
平成11年入社
宮城県登米市出身

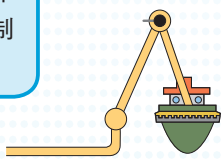
このコーナーは，業務紹介を通じて社員一人ひとり，業務の一つ一つが東北電力を成していることを感じていただくコーナーです。

当社初となるLNG燃料設備が建設された新仙台火力発電所。さまざまな国から到着するLNG船の受け入れに日々奮闘しています。グループの総力を結集し，関係各所と連携しながら，新たな業務のノウハウ構築に挑む火力発電所員を取材しました。

豆知識（まめちしき） LNG受け入れ

新仙台火力発電所では，海外から海上輸送されてきたLNGを受け入れています。LNGは約マイナス160℃の超低温液体であり，受入作業に当たっては安全を最優先に，手順の一つ一つについて船側と発電所側で事前に合意の上実施しています。受入作業は，LNG運転グループ員立ち会いの下，委託先の東北ポートサービスや協力会社と連携して，24時間体制（1泊2日）で実施しています。

LNG船には大きく分けて球形タンクの「モス型」と箱型タンクの「メンブレン型」があります。船によって設備にさまざまな違いがあることから，発電所の桟橋に安全に接岸させ，受入設備であるローディングアームを確実に接続するため，入港するLNG船ごとに綿密な確認作業を行っています。



＜ローディングアーム＞
タンカーからLNGを荷揚げする設備



モス型



メンブレン型

関係者が一同に会する前日会議



LNG船の入港前日には，発電所の関係者をはじめ，東北ポートサービス，船舶代理店（船の立場を代弁してくれる会社）など関係者が一同に会した「前日会議」を開催します。多い時には20人以上が参加し，作業の流れや人員体制などを最終確認し，船の受け入れ準備に万全を期します。

受け入れ前に各方面と調整

受入日が近づくとグループの緊張感も高まります。準備に万全を期すため，当日の天気予報にも注意を払うほか，フェリーなどの航行船舶も多い仙台港の港湾関係者との調整も欠かせません。



愛用品はコレ! 必需品のガス探知器



メタン成分を感知して警報を鳴らすガス探知器。LNGを燃料とする火力発電所のため必ず携行し，配管などからガス漏れがないかを確認しながら業務を行います。

新仙台火力発電所概要



新仙台火力発電所は，経年化の進んだ1･2号機を廃止し，平成28年7月，世界最高水準の熱効率を誇る高効率コンバインドサイクル発電設備である3号系列としてリプレースしました。また，地震や雪害などの自然災害リスクに備え，当社火力発電所への燃料供給源を分散化し，より安定した燃料供給を可能にするため，当社直営としては初となるLNG燃料設備（受入基地）を建設しました。

LNG運転グループは，LNG燃料設備の運転，LNG船の受け入れならびに貯蔵管理を実施する当社唯一の組織であり，設備の保守管理を主管するLNG技術グループと連携して，日々発電所の安定運転のため業務に取り組んでいます。

いよいよLNG船到着～接岸

タグボートの支援を受けてLNG船が桟橋に接岸したら，「ローディングアーム」と呼ばれるLNG船と発電所の配管を連結する設備をしっかりと接続します。

約マイナス160℃のLNGを受け入れるため，ローディングアームをゆっくりと冷却する「クールダウン」と呼ばれる作業を行います。冷却が進んだ配管は，霜が付着したことにより目視でも確認できます。





タグボートの支援でLNG船を接岸する様子



接岸したLNG船



ローディングアーム冷却の様子



接岸後，船内で行う荷役前会議



LNG船が接岸すると，すぐに船内で会議を行います。海外から来た船の乗組員とはここで初めて顔を合わせるため，通訳を介しながら，作業手順や工程などを丁寧に確認します。

オフタイム 同僚と一緒に卓球

昼休みには職場の同僚と一緒に卓球をしている佐藤さん。学生のときから親しんできた卓球でリフレッシュすると，また新たな気持ちで業務に向かえるそうです。



緊張が続くLNG受入作業



受入設備の動作確認を行ったら，いよいよLNGの受け入れ開始です。通常は夕方に受け入れを開始し，翌朝まで約12時間にわたる作業となります。交代体制でかたときも休まず，委託先と連携して受入状態の監視を行っています。



購入数量を決める分析作業



LNGの受け入れ中にサンプルを採取しており，受け入れ終了後にLNGの組成（メタン，エタン，プロパンなどの成分の割合）を分析します。DES契約（本船着桟渡し＝LNGを発電所で受け入れた時点で所有権が移転する契約形態）の場合，LNGの組成分析結果により購入数量と金額が確定することから，分析の正確性が求められます。委託先の東北緑化環境保全と連携して，緊張感を持って取り組んでいます。

当直応援業務で現場設備を体感する

LNGの受け入れがない日には，LNG燃料設備を運転する当直業務の応援に入ることもあります。さまざまな設備の運転状態を中央制御室で監視するほか，現場設備のパトロールや機器の点検立ち会いなども行います。五感を使って現場設備の隅々まで体感していくことも，技術を高める重要な機会だと考えています。



中央制御室で監視する様子



パトロールの様子

Key Person!!



新仙台火力発電所
LNG運転グループ
浅野　靖 副長

私たちLNG運転グループは火力部門と燃料部門の人材が持てる力を出し合い，グループ企業の日本海エル・エヌ・ジーをはじめ、他LNG基地との情報交換を通じて，LNG受け入れや基地運営に関する多くの知見を得てスムーズかつ安全なオペレーション体制を構築してきました。

佐藤さんは他火力発電所勤務に加えて日本海エル・エヌ・ジーへの出向経験も活かして，存分に能力を発揮してくれています。誠実な人柄で責任感も強く，所内のみならず取引先との調整も任せられる頼もしい存在です。今後は転入者への技術継承に力を注いで，発電所の安定運転に一層貢献してもらいたいと思います。

今回受け入れた西豪州LNGは，当社が年間約100万tを調達する重要な供給ソースですが，作業の安全確保のためには売主との信頼関係構築も欠かせません。これからも安全作業を継続し，米国シェールガス由来のLNGなど調達ソースの多様化にも取り組み，発電所の安定運転と経済性向上に寄与していければと考えています。

取材MEMO

「ここからは外国扱いですので立ち入りできません」当社の構内に停泊していながら，意外な言葉に足を止められた今回の取材には驚きがたくさんありました。外国船の受け入れはまさに船舶会社であり，約マイナス160℃という超低温液体を扱う姿は化学屋さん。そしてパトロールや当直業務は火力屋さんそのものと，一人で何役もこなす佐藤さんのような存在は，LNG基地を持つ発電所ならではの貴重な人材です。

「WANO小規模CEO会議（インド）」に原田社長が出席

3月6日，インド（ムンバイ）において，「WANO（世界原子力発電事業者協会）小規模CEO会議」が開催され，当社より原田社長，加藤原子力部長が出席しました。

WANOでは2年に1回，全ての加盟者が参加する隔年総会を開催していますが，本会議は，WANOの4地域センター（アトランタ，パリ，モスクワ，東京）より少数のCEOが各地域を代表して参加し，年3回程度行われる会議であり，各地域センター間の情報共有やWANO共通の課題について議論することなどを目的としています。（今回，当社は，国内の電力各社でつくる日本原子力事業者連合を代表して参加）

会議当日は，ホスト電力会社のNPCIL（インド原子力公社）による「インドにおける原子力開発計画」に関する説明に続き，WANO事務局から「WANOピアレビュー結果に基づく発電所格付け（アセスメント）」や「アジアで増加している新設炉へのWANOによる支援のあり方」などの課題について説明された後，参加者による活発な議論が行われました。

当社からは，原田社長より東日本大震災時の当社管内の状況などについて紹介したほか加藤原子力部長より「東日本大震災時の女川原子力発電所の対応状況」を説明しました。最後に原田社長より「女川，東通の再稼働は，単なる再起動（restart）ではなく“再出発（recommissioning）”であり，新設炉と同じ気持ちで取り組んでいく」との意思表明を行い，WANOからは全面的な支援が表明されました。


参加者と意見交換を行う原田社長（左：レガルドWANO議長）


参加者との集合写真

個人投資家向け会社説明会を開催

2月から3月にかけて，仙台市および新潟市において，個人投資家を対象とした会社説明会を開催し，IR推進委員会委員長である岡信副社長，同副委員長である山本常務が，東日本大震災からの回復の状況や，1月末に公表した東北電力グループ中期経営方針（2017~2020年度）の概要などについて説明しました。

個人投資家向け会社説明会は，昨年，震災後初めて実施しましたが，今年度は対象地域を拡大するとともに，回数を増やして開催しています。

各会場には，延べ222人の個人投資家の方々が訪れ，参加者からは，経営の重要課題である原子力の再稼働に向けた取り組み状況のほか，財務目標や新たに公表した3つの定量目標の達成に向けた具体的な施策，株主還元の考え方，女性活用の状況など，さまざまな観点から質問が出され，岡信副社長，山本常務が一つ一つの質問に対し，参加者からの理解が得られるよう，丁寧に回答しました。


中期経営方針の説明を行う岡信副社長


個人投資家からの質問に答える山本常務

説明会終了後に実施したアンケートには，「東北電力の株式に投資したい」，「投資候補銘柄にしたい」といった声も数多く寄せられており，当社の成長戦略や経営の方向性などについて，一定の理解を得たことによる新規個人株主の獲得が期待できます。

当社は，来年度以降も，個人投資家を対象とした会社説明会を開催することで，幅広い層の投資家とのコミュニケーションを図り，当社経営に対する理解促進に努め，新規個人株主の獲得に向けた取り組みを展開していきます。

個人投資家向け会社説明会の開催回数・参加人数

平成27年度（1回）	山本常務	仙台市1回（参加者　120人）
平成28年度（計3回）	岡信副社長	仙台市1回（参加者　115人）
	山本常務	仙台市1回（参加者　55人） 新潟市1回（参加者　52人）

海輪会長と山本常務が海外IR活動を実施

海輪会長，山本常務は，IR活動の一環としてそれぞれ北米，アジアの機関投資家を訪問しました。

外国人投資家の当社株式保有比率が高水準にある中，国際的な機関投資家の方々に直に経営方針を説明することは，当社への理解を深めていただく有効な機会です。

今回の訪問では，財務目標の確実な達成を図るため，新中期経営方針に基づく将来の成長に向けた事業展開や投資を通じて，さらなる企業価値の向上に努めていることを説明し，信頼関係の醸成を図りました。



海輪会長は3月13日から14日にかけて北米の機関投資家を訪問



山本常務は3月7日から10日にかけて香港・シンガポールの機関投資家を訪問

復興支援イベント「マル・デ・ミヤギ」に特別協賛

当社は，3月2日，3日に東京の丸ビルで開催された「マル・デ・ミヤギ」に特別協賛として参加しました。本イベントは復興支援を目的とするもので，2014年から三菱地所と河北新報社の共催で開催され，当社も昨年から参加しています。

オープニングセレモニーでは，石森常務がテープカットを行ったほか，当社コーナーでは，震災時の対応や当社のサービスを紹介しました。期間中は，1,000人を超える方々へ，地域に“寄り添う”企業姿勢や，「よりそう，でんき」，「よりそうeねっと」などをPRすることができました。

今後とも，当社はお客さまへのご提案や地域へのさまざま貢献活動を通じ，お客さま・地域によりそい，皆さまに選ばれる東北電力を目指していきます。



オープニングセレモニーでテープカットをする石森常務（一番左）

三居沢発電所「でんきの礎」顕彰

3月16日，富山県で開催された電気学会全国大会において第10回「でんきの礎」授与式が行われ，水力発電発祥の地として宮城支店管内の三居沢発電所が顕彰されました。

「でんきの礎」は，社会生活に大きく貢献した電気技術の功績をたたえ，その価値を広く世の中に周知し，今後の電気技術の発展に寄与することを目的として創設された制度で，当社としては東新潟火力発電所3-1号系列に続き2件目の受賞となります。

三居沢発電所は，1888年に宮城紡績会社が日本初の水力発電に成功し，工場の夜間作業用に電灯を灯したのが始まりで，その後，電気供給事業の開始，事業承継を経て，最大出力1,000kWで運転を続ける現役の水力発電所です。

今回の授与式には田苗常務が出席し，授与された顕彰状と記念品は，三居沢電気百年館に展示する予定です。



田中電気学会会長（前列左から4番目）と顕彰先代表者（後列右端が田苗常務）

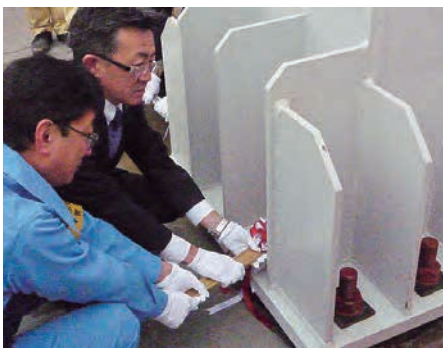
能代火力発電所3号機ボイラー立柱式開催

能代火力発電所3号機新設工事におけるボイラーの本格的な工事の開始に伴い，3月7日，工事の安全を祈念するため，ボイラー立柱式が行われました。

当日は，大野火力部長，橋本建設所長をはじめとする当社関係者や，工事関係者ら約100人が出席し，玉串奉てんや立柱の儀などの神事を執り行い，工事を安全に進めていくことができるよう祈念しました。

能代火力発電所3号機の建設工事は，平成28年2月の土木工事開始以降，順調に工事が進んできました。発電設備の工事は，ボイラーから組み立てを開始し，今後，発電機，蒸気タービンなどを順次据え付けていく計画としています。

今後，発電設備の工事が本格化していく中，工事関係者が一丸となり，安全最優先の下，無事故・無災害で工事を進め，平成32年6月の営業運転開始を目指していきます。



立柱の儀の様子（奥:大野火力部長，手前:橋本建設所長）

「第136回永年勤続者感謝状贈呈式」を開催

3月22日，仙台市において，「第136回永年勤続者感謝状贈呈式」が開催され，今年9月までの定年退職予定者と，今年2月までに関係会社などへ転籍された方，およびそのご家族，184人が出席しました。

原田社長は，開会のあいさつで，当社の歴史や東日本大震災以降の対応を振り返るとともに，今後の事業展開について触れ，「皆さまが築いてくださった現場力や技術力，伝統をしっかり受け継ぎ，会社の発展・成長につなげていく」と，永年勤続者の方々へ感謝と労いの思いを伝えた上で，「これからも当社を支える応援団としてご支援をお願いしたい」と結びました。

これに対し，永年勤続者を代表して，エルタス東北取締役リビング部長の片桐一夫さんが，会社生活を振り返りながら，関係する皆さんへの御礼を述べた上で，「東北電力はどのような時代にあっても，後世に誇れる歴史を作っていくものと確信している」として，「地域との架け橋としての役割を果たしていけるよう頑張っていく」と謝辞を述べました。


永年勤続者の方々へメッセージを贈る原田社長


謝辞を述べる片桐さん


感謝状贈呈の様子

「平成28年度電力システム部門総合技能大会」を開催

3月14日から17日までの4日間，「平成28年度電力システム部門総合技能大会」が総合研修センターで開催されました。

電力システム部門では，技術・技能の継承や，相互研さんによるさらなる技術力の向上などを目的として，給電・変電・送電の3部門合同の技能大会を開催しています。平成24年度以降，通算5回目の開催となる今回は，系統給電指令所および各支店代表の競技者をはじめ，運営関係者・見学者を含めて約360人が参加しました。

また当日は，高橋相談役をはじめとする経営層，関東東北産業保安監督部東北支部や工事会社などの方々が視察に訪れたほか，(株)ユアテック，通研電気工業(株)に模範作業や審査員として協力いただきました。

同部門は，現在，安全文化の改革に取り組んでおり，競技者は互いに声を掛け合い，安全ルールを再確認しながら確実に作業や操作を進め，技能を競い合いました。

競技の結果，給電部門(系統給電指令所の部)では宮城系統給電指令所と石巻技術センター制御所が，給電部門(制御所の部)では北上技術センター制御所が，変電部門では福島支店が，送電部門では山形支店がそれぞれ優秀賞を受賞しました。

技能課題

給電部門	訓練用シミュレータを使用した系統事故復旧操作
変電部門	66kVしゃ断器の制御系作業(CT二次ケーブル張替)
送電部門	電線アーマロッド補修および作業員の救助


給電部門の競技の様子(系統事故復旧操作)



優秀賞受賞チームの記念撮影

新潟の地場産業“日本酒”から考える地方創生～新潟日報メディアシップでイベント開催～

新潟支店は,3月20日に新潟日報メディアシップで開催された,新潟“地方創生”発信･交流事業「新潟が誇る『日本酒』全国へ、そして未来へ」に特別協賛しました。

このイベントは,新潟の主要な地場産業である日本酒をテーマに地方創生を考える「新潟“地方創生”フォーラム～日本酒から考える“地方創生”～」と,東日本大震災の復興支援の一環として東北の物産を販売する「復興･交流商店街」で構成されており,新潟日報社が主催したものです。

当日は,天候にも恵まれ,約2,900人の来場がありました。このうち,フォーラムには約200人が参加し,冒頭,特別協賛社として,武田新潟支店長から「当社は創立以来『地域の繁栄なくして当社の発展なし』との考えの下,地元電力会社として電力の安定供給とともに地域社会の皆さまと力を合わせてさまざまな取り組みを行ってきており,今後も新潟の活性化･発展に貢献していきたい」と,あいさつしました。

続いて,「Sakeから観光立国」と題し,元JALキャビンアテンダントでソムリエの資格を持つ(株)コーポ･サチ代表取締役の平出淑恵氏より,ワインを学んで気付いた日本酒の価値･可能性や,世界に広げるための取り組みについて講演がありました。その後のパネルトークでは,原酒造(株)杜氏の石黒芳和氏,新潟県醸造試験場長の金桶光起氏,市島酒造(株)代表取締役社長の市島健二氏をパネリストに迎え,新潟の日本酒の今後に対する思いや夢を大いに語り,盛会裏にフォーラムの幕が閉じました。

また,復興･交流商店街では,東北の新聞社が厳選した物産や,岩手,宮城,福島,新潟各県酒蔵の出店により日本酒の試飲販売などが行われ,物品販売を通して,多くの方々から東北復興へのご支援をいただきました。


フォーラムであいさつする武田新潟支店長



パネルトークでは,パネリストそれぞれの立場から,日本酒について話があった

土木部門「平成28年度土木建設･保守技術向上に向けた情報交換会」を開催

3月7日から8日,本店を会場に「平成28年度土木建設･保守技術向上に向けた情報交換会」を開催しました。

この情報交換会は,各職場における課題解決の取り組み事例の共有を通して,部門の技術力の底上げと,一体感の醸成を図ることに加え,発表を通した課題発見力･プレゼン能力の向上を目的としています。

発表は,水力･火力･原子力発電所の建設･保守,流通工事の全25件,土木構造物の設計･施工方法から新たな情報通信技術「IoT」等の実用化に向けた検討など幅広い分野にわたり,活発な質疑応答が交わされました。また,当日は,テレビ会議システムにより発表の様子を全土木関係事業所に中継し,各事業所でも事例を共有しました。

土木部門では,今後もこうした場を設け「東北電力の技術力」の着実な継承とさらなる向上を図っていくこととしています。


この情報交換会は昨年度に初めて開催。2回目となる今回は,関係会社を含む約90人が参加した

グリーンプラザで「石巻かほく復興写真展～復興の息吹 彩りの石巻地方～」を開催

広報･地域交流部は,2月28日から3月9日にかけて,東北電力グリーンプラザを会場に「石巻かほく復興写真展～復興の息吹 彩りの石巻地方～」を開催しました。

本写真展は,当社が協賛する「石巻かほく復興写真展」(主催:三陸河北新報社)における入賞･入選作品の展示会という位置付けで,平成23年度から毎年開催しています。

第6回目となる今回は,入賞作品18点と入選作品32点の計50点を展示し,色鮮やかな復興の息吹が感じられる景観や,復興に向けて取り組む人々の姿など,石巻地方の今の姿を多くの方々にご覧いただきました。

会場では,展示した写真を見ながら「きれいだね」,「素敵な写真だね」と語り合う姿や,被災地マップや復興の進ちょく状況を定点撮影した比較写真などを見ながら,「こんなにひどかったのに,ここまで復興したんだね」と,親子で当時を振り返りながら,真剣に写真に向き合う姿も見られました。


足を止め,じっくりと写真を見つめる来場者

燃料電池自動車トヨタ「MIRAI」納車式を開催
～本店において「新型プリウスPHV」とともに車両を展示～

3月22日,「燃料電池自動車納車式」が開催され,坂本副社長,樋口常務をはじめとする当社関係者と,宮城県の若生副知事(当時),仙台トヨペットの佐藤社長などが来賓として出席しました。

燃料電池自動車トヨタ「MIRAI」は,走行時に二酸化炭素を排出しないため,運輸部門における二酸化炭素排出削減に貢献することが期待でき,また,東北でも商用水素ステーションが開設されたことから,本店に1台導入し,業務用車両として活用することとしました。

納車式の終了後は,3月から始まった「PHVよりそうeドライブプロジェクト」の紹介も兼ねて,24日までの3日間,「MIRAI」と「新型プリウスPHV」の2台の車両を本店ロビーへ展示しました。新型プリウスPHVについては,当社では,平成28年度に全店で6台を導入しており,今年度は17台を導入する予定としています。


仙台トヨペット佐藤社長からゴールデンキーの贈呈を受ける坂本副社長



3月22日から24日にかけて展示されたMIRAI(手前)と新型プリウスPHV(奥)

「PHVよりそうeドライブプロジェクト」 2020年3月31日まで

環境性能にすぐれる新型プリウスPHVをご購入のお客さまを対象に,EVモード走行や,東北6県・新潟県の提携旅館・ホテルのご利用で「よりそうeポイント」をプレゼントするサービス。(EVモード走行距離10kmにつき4ポイント,提携旅館・ホテルへの宿泊1回につき5,000ポイント獲得)




プロジェクトをPRするため,3月23日,本店にてチラシ配りを実施

～詳しくは,H.A.N.D.S.お知らせや当社ホームページでご紹介しています～

「東北電力グループ 営業力強化ワークショップ 成果発表会」開催

グループ事業推進部では,東北電力グループにおける一般向け収益拡大のため,関係会社と一体となった各種施策を展開しています。

その一つとして,東北電力グループにおける営業活動をさらに促進させるため,関係会社の商品の強みや特徴を再認識し,営業ノウハウの標準化により,営業活動を科学的に,そして組織的に展開する力を付けることを目的とした「東北電力グループ 営業力強化ワークショップ」を実施し,その取り組み内容や成果を企業グループ内で共有する成果発表会を3月10日に本店で開催しました。

ワークショップは,平成28年7月から12月にわたり計8回実施し,(株)ユアテック,北日本電線(株),東北インフォメーション・システムズ(株)の3社が参加しました。

それらの取り組み内容・成果に関する発表会には,グループ企業や当社関係者など63人が参加し,実際に販売実績につながった事例や,営業担当者のスキル向上が定量的に評価できた事例など,着実に成果が上がっているとの報告を共有しました。

また,ワークショップのファシリテーターであるソフトブレーン・サービス(株)の野部社長より,「目標達成のすすめ,勝ち続ける組織の条件」と題し講演をいただき,「部下を動かすときは部下の頭の中に具体的なイメージを構築させることが重要」,「結果を管理しても結果は出ない,課題を把握するためには結果につながるプロセスを設計し,そのプロセスを管理する必要がある」との示唆に,参加者は熱心に耳を傾けました。

最後に佐々木グループ事業推進部長から,「今後,電力自由化が進み,事業環境がますます厳しくなる中,一般市場向け販売をさらに強化する必要がある。ワークショップ終了から短期間にも関わらず,全ての会社が着実に成果を出したことに感謝するとともに,今後も取り組みを継続してほしい」と総評がありました。


代表者からの発表の様子


発表を受けて,活発な質疑応答が行われた

掲示板

平成28年度 第2回 火力原子力本部長表彰

件　名	概　要
仙台火力4号機蒸気タービン不具合事象の早期発見と適切な処置による設備事故防止について	大きなトラブルとなり得るわずかな異常兆候に気付くとともに，震災後の厳しい需給状況にも対応するため，きめ細かな状態監視と運用制限により運転を継続し，定期点検工事に合わせた修繕に結び付け，供給力確保と重大事故の未然防止を図った。
＜受賞者＞　仙台火力発電所（発電技術）　梅田 晋弥さん，佐藤 真さん，常松 泰孝さん，豊島 広樹さん	
使用済燃料貯蔵ラック加振試験による耐震工事費用の削減について	基準地震動見直しに伴い耐震性確保が困難となっていた使用済燃料貯蔵ラックについて，加振試験で得られた知見の適用により耐震性を確保することで，大規模な改造を回避し，工事費用削減に大きく貢献した。
＜受賞者＞　原子力部（原子力設備）　草階 達朗さん 女川原子力発電所　保全部（大規模改良）　飯田 純さん（当時 原子力部（原子力業務）勤務）	
リスク情報の可視化によるトラブル等の未然防止に向けた取組みについて	発電所幹部が全員参加する毎朝の会議手法を，リスク情報の可視化や報告内容の標準化などにより，情報の認知レベルを引き上げ，トラブルの未然防止に対する意識向上等につなげることで，プラントの安全性向上に大きく貢献した。
＜受賞者＞　東通原子力発電所 技術課　本間 圭祐さん，高橋 保さん，山田 紘平さん，鳥谷部 亮太さん，佐藤 寿郎さん	



坂本副社長から表彰状を授与

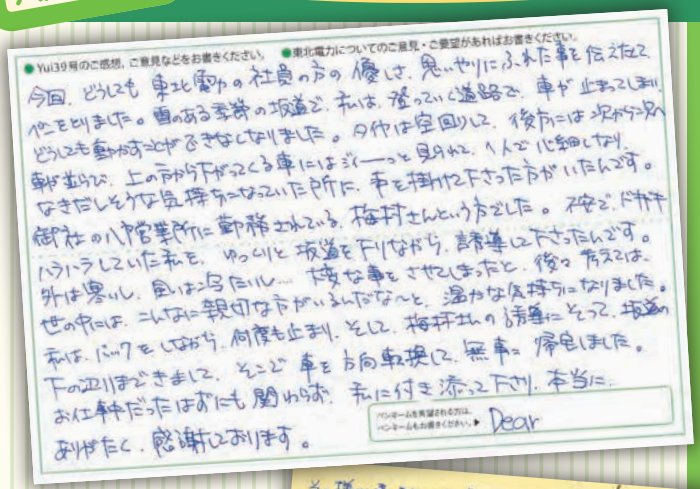


渡部副社長，坂本副社長，笹川副社長と受賞代表者の記念撮影。左から，仙台火力発電所（発電技術）梅田晋弥さん，原子力部（原子力設備）草階達朗さん，東通原子力発電所 技術課 本間圭祐さん

八戸営業所

当社社員の思いやりある行動に対して，感謝のお手紙をいただきました。

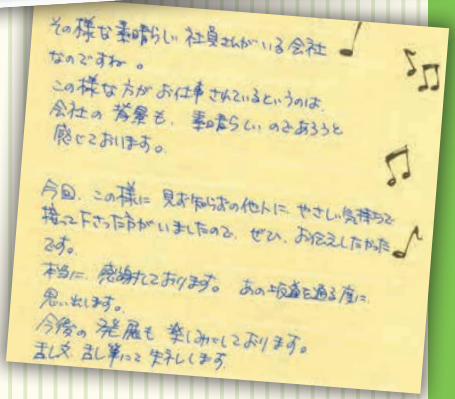
お客さまの声



Yui39号のご感想，ご意見などをお書きください。　●東北電力についてのご意見・ご要望があればお書きください。

今回，どうしても東北電力の社員の方の優しさ，思いやりにふれた事を伝えたくてとりました。雪のある季節の坂道と，私は，滑ってしまい，車が止まってしまいどうしても動かすことができなくなりました。夕方は空回りして，後方からは次から次へと車が並び，上の方から下がってくる車にはぶつかりそうになり，なきだしそうな気持ちになっていた所に，声を掛けた下さった方がいたんです。御社の八戸営業所に勤務されている，梅村さんという方でした。不安で，パニックしていた私を，ゆっくりと坂道を下りながら，誘導して下さったんです。外は寒いし，風は冷たいし…嫌な事をさせてしまったと，後の方々には，世の中には，こんなに親切な方がいるんだなと，温かな気持ちになりました。私は，バックをしながら，何度も止まり，そして，梅村さんの誘導にそって，坂道の下の辺りまできまして，そこで車を方向転換して，無事，帰宅しました。お仕事だったはずにも関わらず，私に付き添って下さり，本当にありがたく，感謝しております。

Dear



その様な素晴らしい社員さんがいる会社なのですね。
この様な方がお仕事されているというのは，会社の背景も，素晴らしいのだろうと感じております。
今回，この様に見ず知らずの他人に，やさしい気持ちで接して下さった方がいましたので，ぜひ，お伝えしたかったです。
本当に，感謝しております。あの坂道を通る度に思い出します。
今後の発展も楽しみにしております。
末筆ながら，ご健康にご注意ください。

手紙には，梅村さんの行動に対する感謝とともに，「このような方がお仕事されているというのは，会社の背景も素晴らしいのだろうと感じております」とつづられ，当社に対して良いイメージを抱いていただけたことが伝わる内容です

対応者にお話を聞きました！

八戸営業所 お客さまサービス課　**梅村　聡** さん

検針業務の帰り道，路面の凍結により，上り坂の途中で１台の車が立ち往生し，長い渋滞が発生していました。タイヤが空転して前にも後ろにも進めず，運転手の方は非常に不安そうな様子だったため，声をお掛けし，車を安全な場所まで誘導しました。

後日，そのお客さまから，お礼の言葉と当社企業姿勢についてもお褒めの言葉をいただき，うれしく，身が引き締まる思いです。自分自身の何気ない行動が，当社のイメージにつながるのだということをあらためて感じました。「より、そう、ちから。」というコーポレートスローガンの下，地域のお客さまに当社の魅力を伝えられるよう，これからもお客さまに向き合っていきたいです。



退職者の方々



情報通信部付
ユアテック出向
滝口 祐二



青森支店付
エルタス東北出向
上村 正光



岩手支店付
ユアテック出向
村上 吉信



宮城支店付
東北送配電サービス出向
羽田 尚之



福島支店付
ユアテック出向
花見 明彦



弘前営業所
お客さま提案課
福士 節子



能代営業所
お客さまサービス課
高田 寛



本荘営業所
お客さま提案課
森 光子



新潟営業所
樋口 博文

平成29年2月の退職者（敬称略）※所属は退職時のもの

＜BRIDGE3月号の訂正について＞ 15ページ「秋田火力2号機」写真は，東新潟火力発電所の写真を誤って掲載したものです。ここに訂正いたします。

社内テレビ放送



都合のよい日時を選んで，ぜひご覧ください。
お問い合わせや，NEWS スクエアへの
ご意見・ご感想は，
下記の担当者までお気軽にどうぞ。
情報提供・ご投稿もお待ちしています。



広報・地域交流部（広報・交流企画）
登坂 保安.910-3026,w050013

第1・第3
月曜日～水曜日に
放送

放送時間
9時，10時，12時，
12時40分，
13時10分，17時，
17時30分

編集後記

昨年も取材しましたが，入社式は特別な雰囲気。新入社員の皆さんからフレッシュなエネルギーをもらうと同時に，先輩社員の端くれとして，気持ちが引き締まりました。

さて，お気付きでしょうか，今月号からBRIDGEが「左開き」に変わりました。最近の雑誌では横書きの記事が多くなっていますが，これは，アルファベットや数字の読みやすさ，レイアウトの自由度の高さなどが理由のようです。BRIDGEでも，同じ理由で大半の記事が横書きですが，目の動きは右へ…左へ…，読む順序が分かりづらいのが難点。市販している雑誌は，売り場に並べるという性質上，慣例にならった右開きが主流のようですが，当社は“変革のとき”。BRIDGEは読みやすさを追求して体裁変更に至りました。

新入社員と同じようなフレッシュなBRIDGEです。今年度も社員の皆さんに見守っていただければ幸いです。

広報・地域交流部（広報・交流企画）志賀
保安.910-3027,w119015

新年度の取材は昨年のリプレースが記憶に新しい「新仙台火力発電所」に伺いました。昔，近くの営業所に勤務していたこともあり，何度か足を運んだことのある発電所ですが，リプレース後，初となる新生プラントは記憶が一掃されるほど「別世界」に。真新しい燃料タンクやピカピカの配管は「最新鋭」という輝きを放っている一方で，その背後にはひっそりと解体作業が進められているもう一つの老練プラントの姿がありました。今回，カメラに納まることのなかったこのプラントこそが，火主水従の全盛期を支えた火力発電の歴史そのものであり，安定供給という変わることのないミッションを次の世代へつないでいるのだとあらためて感じました。

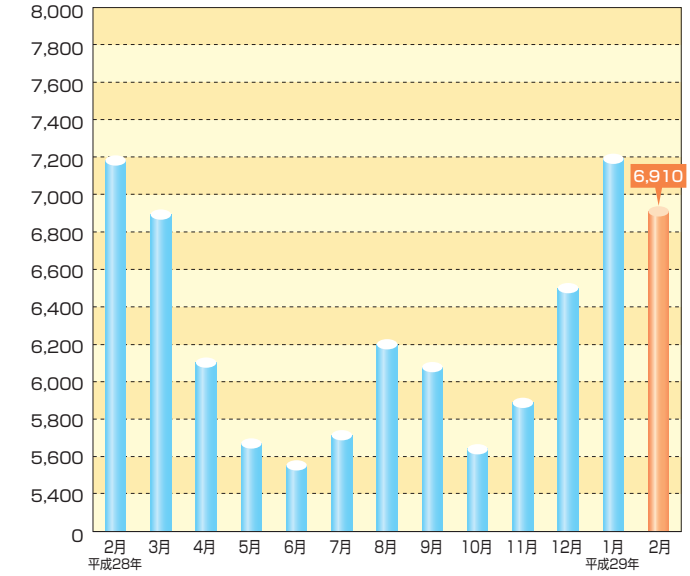
変わるものと変わらぬ思い・・・。今月号から横書きに体裁を変えたブリッジが，これまでと変わらぬ思いを紡いでいきます。

広報・地域交流部（広報・交流企画）武蔵
保安.910-3025,w889105

DATA FILE

電力需給実績（平成29年2月分）

販売電力量



エネルギー種別別発受電電力量

単位：百万kWh
（　）内は構成比％



■電力需要について

2月分の販売電力量の合計は，69億1,000万kWh，対前年比96.2%の実績となり，前年に比べ検針期間が短かったことや契約電力の減少などから，前年実績を下回りました。

用途別の実績については，以下のとおりです。

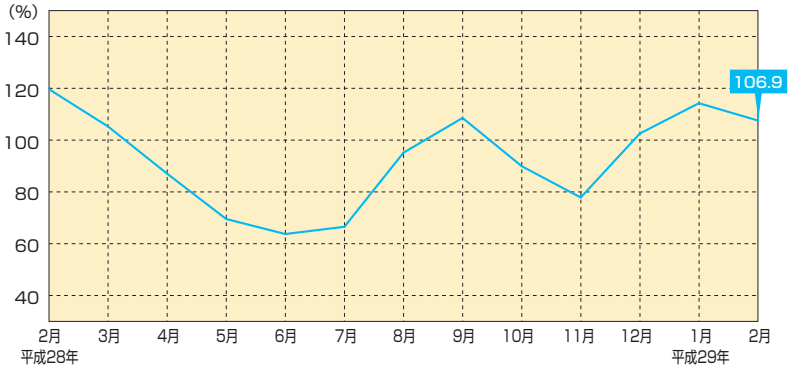
【電灯】

電灯は，前年に比べ検針期間が短かったことなどから，対前年比97.5%と前年実績を下回りました。

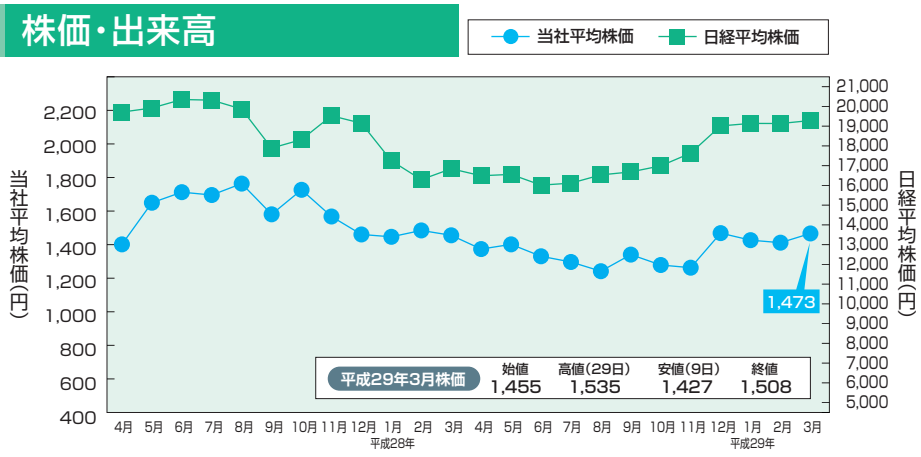
【電力】

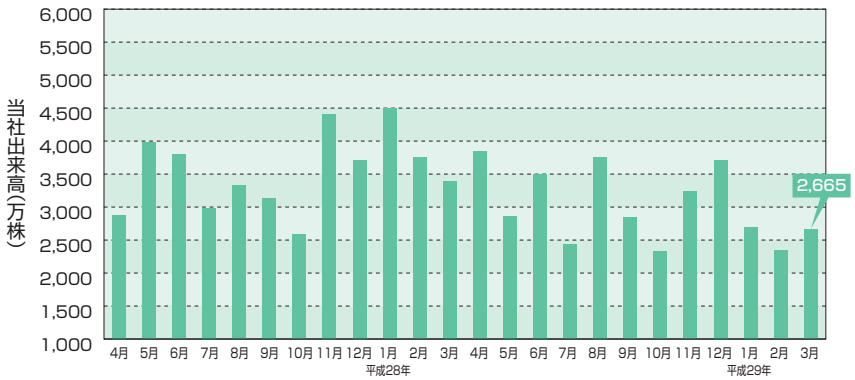
電力は，契約電力の減少などから，対前年比95.5%と前年実績を下回りました。

出水率



株価・出来高







株式投資と証券会社

企業が事業を行うためには，多くの資金が必要です。例えば，自動車やテレビを生産するには，機械や工場などの設備を導入するための資金が必要になります。こうした資金を調達するには，「銀行から借りる」，「社債を発行して投資家から借りる」，「株式を発行して投資家から出資を募る」などの方法があります。このうち，株式とは，企業が事業を行うために必要な資金をほかの企業や個人から集めるために発行する証券のことをいいます。そして株式を購入（出資）した人は，その株式を発行している企業の株主となります。株主には企業の所有者の一人として，株主総会で議決権を行使する権利や，配当金として利益の一部の分配を受ける権利，その他さまざまな権利が与えられます。

では実際に，「株式を買いたい」と思ったらどうすればよいのでしょうか。株式を発行しているのは企業ですが，投資家は，直接企業に株式を売ってもらうわけではありません。その理由は，株式は「証券取引所（正式名称は金融商品取引所）」と呼ばれる市場で売買されることになっているからです。株式を売買するためには，まずは売買注文を受ける窓口となる証券会社に口座を開設し，必要な資金を当該口座に入金した後，売買注文を出さなければなりません。

証券会社は，投資家から受けた売買注文を証券取引所へと取り次ぎます。証券取引所では，さまざまな証券会社から集めた売買注文を整理し，一定のルールに従って取引を成立させていきます。取引が無事に成立すると，投資家は証券会社を通じて売買代金を精算します。「株式を買って株主になった」という情報も，証券会社を通じて各企業へと伝えられます。